



立正佼成会ニューヨーク教会

320 East 39th Street, New York, NY 10016 TEL: (212) 867-5677

E-mail address: koseiny@aol.com, Website : <http://rk-ny.org>



ニュースレター2021年 9月号

皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか。

9月に入り教会もいよいよ再開に向けて準備と思っておりましたが、状況は好転せず今しばらく様子を見る必要があります。このコロナ禍にあつて先月は東京オリンピックが開催されアスリート達の熱い情熱に感動させられる日々でやがて無事閉幕を迎えました。その後突如としてアメリカ軍隊がアフガンからの撤退となり20年の駐留に幕を下ろし世界情勢は混迷しております、

ワクチン接種が進み収束に向かうかと思いきや、また新たなタイプが発生し医療関係に携わる方々や、行政機関、ソーシャルワーカーの皆様さらなる不断のはたらきに深く感謝申し上げます。

またこれまでに多くの方がお亡くなりになりましたがその御霊に対しご冥福をお祈り申し上げますとともに、現在入院加療中、自宅での療養をされている皆様の早期無事回復を心より祈念いたします。

ところで、先日家で夕食にスープを作りながらふと気づくことができました。今月はそのこととお話したいと思います。スープには色々な具材を入れスパイス、調味料を加えますがそこにレシピに無い隠し味を加えることによりさらに奥深い味が醸し出されます。個々の具材のもつ味が全体に溶け込み大きな調和(味わい)を作り出すこととなります。

その時の気付きとは「法華経」の意味についてです。

法華経では特徴的に大事な3つの事が語られていると言われています。

1つ目は「諸法実相」：方便品第2でお釈迦様の悟りの根本であるこの宇宙の成り立ち、人間の在り方が”十如是”で示されています。

2つ目が「久遠実成」：寿量品第16で仏様のはたらきは時空をこえた永遠なものと説かれます。

3つ目が「仏の子」：だれもが仏の子で成仏できる、仏性の自覚が大切とされています。

これらの事が序品第1から嘱累品第22まで語られ、最後にお釈迦様はこの教えを多くの人に伝えてくださいとすべての菩薩に託され、お説法は一段落しています。

23番以降は具体的実践のありかたが、さまざまな菩薩のはたらきとして登場し私たちの手本として示されています。

私は当初23番以降の重要性があまりわかりませんでした。しかしすべての人を救おうと説かれた法華経ですからそこには、人々の持つ苦しみ、悩み、不安に対し観音様や陀羅尼が登場しあの手この手を通じて救い取る多様な方便が示されていることに気がきました。しかもその事にとどまらず法華経の真実を示すために多くの方を助けて人々の仏性に目覚めさせたいという慈悲の奥深さを感じる事が出来ました。

方便の大切さ：お釈迦様は悟りを開かれた後多くの出家僧に教えを説かれることのみならず、村々を歩かれ人々の苦しみを取り除き人としてのあゆみかたをおさとしてくださいました。それは人と場合に応じた適切な方法でわかりやすくお教えくださり、難しい悟りを難しく説くのではなく、やさしく誰にも分かるように語られました。

その意味では23番以降に人々の関心や、求めに合わせさまざまな菩薩が登場し多様な方便が説かれていることが良く分かります。これは大事だ、これは必要ないと決めつけるのではなくそのことを通して法華経の真実への道につながる事が大切で「方便と真実」の両方が重要です。

スープの話に戻りますと、具材やスパイスの一つ一つを取り上げ個々の味や、香りを論じるのではなくそれらがまじり合いながらおいしい料理を完成させる目的につなげることが大事です。

しかも、その配分はかたよることなく、それぞれがほどほどの分量でバランスを保つことにより全体としての味わいが成り立ちます。今回は慣れない料理を通して大きな目的に向かってそれぞれが役割を果たして行くという調和の世界を学ぶことが出来ました。

物事を見る時に「目的と手段」を見極めることが大切だと言われますが、何が今大切で向かうべき方向なのか、そのための方法は何なのかをよく見ずに取り違えますと、時に自分のしていることが分からなくなってしまいます。何を目的として進み、その歩み方、方法は何かをときどき点検しませんが、「手段」が「目的」になってしまうことがあります。

私たちが毎日暮らしていることの意味は何なのか、毎日が忙しいとそんなこと考えなくても時間はどんどん進んでゆき、考えなければかえって悩まずに済み一日が終わります。

昔読んだ本で岡 潔と言う数学者が「エッセンシャルとトレビアル」と言う内容の話を書いていました。エッセンシャルとは本質的な事、トレビアルとはどうでもよい事という対照的な考え方ですが「目的と手段」に通じる見方です。人はどうしてもトレビアルなことにとらわれてしまい毎日を送っているが、何が本当に大切であるかを生活の中で整理して見ていく訓練が大切で、そのためには一度立ち止まってみる必要があるとその本で述べられていました。

コロナ禍にあって自粛生活が強られる毎日ですがこうした時こそ、落ち着いて物事を見つめエッセンシャルな生き方を考えてみる絶好の機会ではないでしょうか。こうした機会がないと日々忙殺され時間に押しつぶされてしまいます。今月も朝夕のご供養、ZOOMでの法座参加、読書などを通じて有意義で豊かな時間をお過ごしいただければと思います。



合掌

ニューヨーク教会長
畠山友利